

「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成

見通し・振り返りがしやすい構成で「指導と評価の一体化」を支援

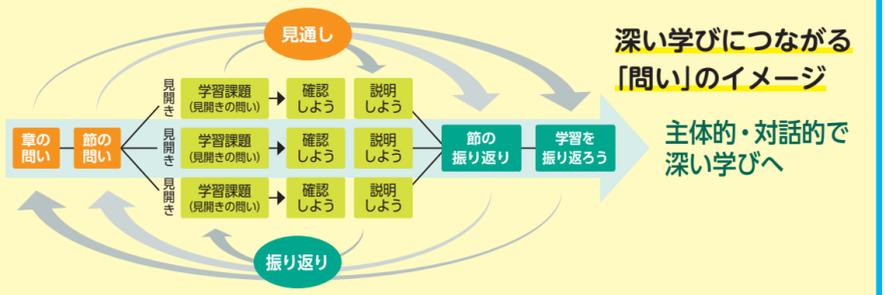
章・節を単元のまとまりとし、学習の見通し・振り返りがしやすい構成にしています。学習の見通し・振り返りを通して、学習者は「主体的・対話的で深い学び」を、指導者は「指導と評価の一体化」を実現できるようにしています。

章・節の展開 知・技 …知識・技能 思・判・表 …思考・判断・表現 主 …主体的に学習に取り組む態度

ポイント

右のイメージのように、「章・節の問い」を受けた「学習課題」を各見開きに設置し、見通し・振り返り学習を積み重ねることで、「章・節の問い」にせまれるよう、「問い」を構造化しています。また、各問いの役割と関連を明確にしているため、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を着実に習得・育成でき、それぞれの観点別評価を適切に行えるようにしています。「章・節の問い」に取り組むことで、習得した「**知能・技能**」やそれを活用した「**思考・判断・表現**」を評価できるようにしています。また、単元を通した見通しと振り返りによって、自らの学びを調整し、粘り強く取り組む「**主体的に学習に取り組む態度**」を見取ることができるようにしています。

問いの種類	観点別評価への対応		
	知	思・判・表	主
章の問い	○	○	○
節の問い	○	○	○
学習課題	○	○	
確認しよう	○		
説明しよう	○	○	



見通し

章扉 (章の問い)・タイムトラベル 主

章の冒頭には「章扉」を設置しています。小学校の学習事項や前の単元で学習したことを踏まえ、「章の問い」とともに単元の学びを見通す活動を行います。また、各時代のはじめに置かれた「タイムトラベル」では、イラストを通じて当時の社会に対する「興味・関心」を高められるようにしています。

節の問い

単元のはじめには「節の問い」を設置しています。「単元を貫く問い」を明示することで、見通しをもって学習に取り組めるようにしています。

学習課題

各見開きに「節の問い」に対応した「学習課題」を設置しています。

確認しよう/説明しよう

各見開きに「学習課題」に対応した「確認しよう/説明しよう」を設置しています。

学習を振り返ろう

章末には「学習を振り返ろう」を設置しています。思考ツールを活用しながら対話を通して「章・節の問い」に取り組むことで「対話的な学び」や「深い学び」を実現できるようにしています。

【例】第4章「武家政権の展開と世界の動き」(p.105-160)

↑p.105

小・地・公アイコン 小学校・地理・公民・他教科との関連 NEW

小学校での学習や、他分野・他教科と関連のある題材を示し、物事を多面的・多角的に捉える足がかりとなるようにしています。また、分野間・教科間でのカリキュラム・マネジメントを実施する指標となるようにしています。

詳しくは本資料p.32

学習活動

振り返り

↑p.146

↑p.148-149

↑p.149

↑p.158-160

詳しくは本資料p.35-38

「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成

見通し・振り返りがしやすい構成で「指導と評価の一体化」を支援

「章扉」・「タイムトラベル」

導入資料

「章扉」には、その時代を象徴する資料を掲載しています。「タイムトラベル」のイラストでは時代の特徴を表す場面を描いています。



p.105



p.134-135

QRコンテンツではタイムトラベルの「次の場面を探してみよう！」で設定している、時代の特徴を表す場面を表示することができます。



QRコンテンツ「タイムトラベル」

NEW

小学校の学習事項や前の単元の学習を振り返る「章扉」を設置しています。時代を象徴する資料をもとに単元を見通し活動ができるようにしています。

導入の「章扉」・「タイムトラベル」を活用し、見通しを立てて学習を進めていくことで、

「主体的な学び」を実現できるようにしています。

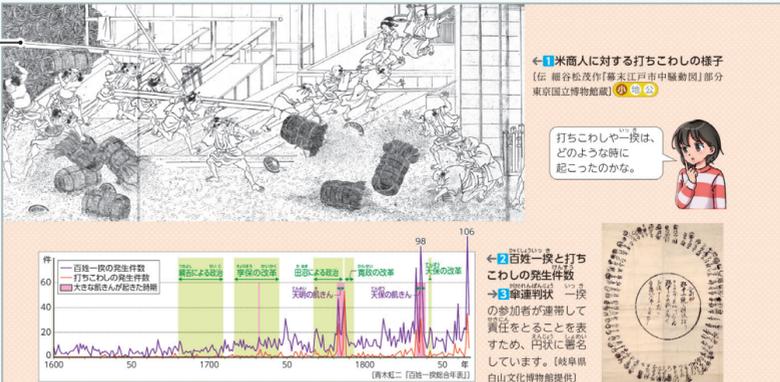
各見開きでも見通し・振り返り学習がしやすい紙面構成になっています。各見開きの学習内容は、「章・節の問い」を受ける形で「学習課題」を設置し、展開しています。

見開き 知・技 思・判・表

導入資料

見開きの学習内容の核心をつき、かつ、生徒に「なぜ」を抱かせる資料を掲載しています。

p.148-149



学習課題

見開きの学習でおさえるべき目標を示しています。本時の学習内容を見通す問いです。

2 繰り返される要求と改革

「節の問い」なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。

地域史 財政改革に成功した米沢藩 かつて120万石もの石高があった上杉氏は、治世が隆々となったときには15万石となっていたが、家臣を減らさなかったため、常に財政難にありました。そこで治世は、大規模な削減を行って幕や藩などの商品作物（p.147）の栽培を奨励しました。さらに、織物業を導入して藩内の産業を盛んにし、江戸で商品を販売することで収入を増やしました。こうした産業の発達や節約により、藩の財政は改善し、諸藩の改革の先駆けとなりました。また飢饉に備え、米の貯蔵や、食用として穀の養蚕を領民に奨励しました。

148 小学校・地理・公民・他教科との関連

百姓一揆と打ちこわし

百姓は、天災などの被害で年貢が納められないとき、年貢を減らしてくれるように領主に要求しました。また、不正を行う役人の交代を要求することもありました。領主側が訴えを受け入れることもありましたが、訴えが退けられると、百姓は一揆を起し（百姓一揆）、城下へ押し寄せました。やがて幕末のころになると、百姓一揆は暴力を伴うようになりました。都市でも、米を買い占めた商人に対して、貧しい人々が打ちこわしを起しました。これらの背景には、貨幣経済の発達で貧富の差が生まれ、社会の基本である身分制が揺らいだ点がありました。幕府は身分の秩序を引き締める法令を出して、体制の維持を図りました。

田沼意次の政治 18世紀後半に老中となった田沼意次は、年貢だけに頼る従来の政策を転換し、発展してきた商業に重点を置いた政策で、財政を立て直しを図りました。田沼は、商品の流通を江戸へと集め、商工業者たちの株仲間（株）の営業権を認め、税を納めさせました。また、長崎から銅や銀物とよばれる海産物を盛んに輸出して金・銀の輸入を減らし、新たな通貨（南錠二朱銀）で金と銀の取り引きをしやすくし、商業の活性化を促す

18世紀後半に老中となった田沼意次は、年貢だけに頼る従来の政策を転換し、発展してきた商業に重点を置いた政策で、財政を立て直しを図りました。田沼は、商品の流通を江戸へと集め、商工業者たちの株仲間（株）の営業権を認め、税を納めさせました。また、長崎から銅や銀物とよばれる海産物を盛んに輸出して金・銀の輸入を減らし、新たな通貨（南錠二朱銀）で金と銀の取り引きをしやすくし、商業の活性化を促す

149 一揆、打ちこわし(小)

節の問い NEW

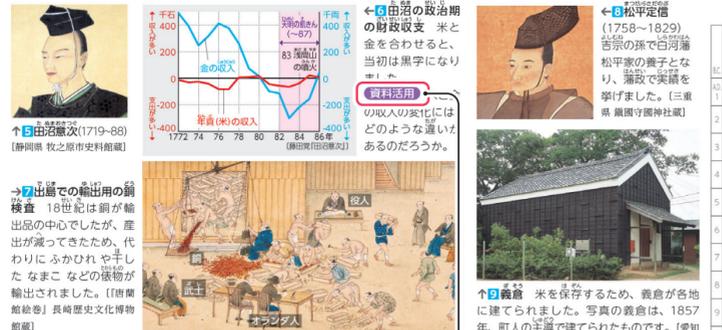
「節の問い」を、各ページのタイトル下にも掲載しています。「単元を貫く問い」である「節の問い」を常に意識して学習に取り組めるようにしています。

ポイント

「節の問い」と見開きの「問い」関係イメージ

各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」でつかんだ学習内容の積み重ねが、「節の問い」の追究につながるようになっています。

→「節の問い」と各見開きの「問い（学習課題・確認しよう・説明しよう）」の関係イメージ



ここで収入の拡大に努めました。さらに干拓工事や蝦夷地の開拓にも乗り出しました。しかし、幕府中心の経済政策や賄賂の横行への批判が高まり、そのなかで、東北地方の冷害や浅間山の噴火などによる天明の飢きんで、百姓一揆や打ちこわしが数多く起こるようになったため、田沼はその責任をとり、老中を退きました。

松平定信の政治 田沼のあとに老中となった松平定信は、徳川吉宗の政治を理想として質素・倹約を掲げ、荒れた農村と幕府の財政を立て直しや都市での飢きん対策に取り組みました。江戸などの都市に出稼ぎに来ていた者を村に帰し、商品作物の栽培を制限して米などの穀物の栽培を奨励したほか、飢きんに備えて米を蓄えさせました。江戸では旗本や御家人の生活難を救うため、町入からの借金を帳消しにしました。また、秩序の乱れを正して幕府の権威を高めるため、庶民が読む出版物の内容を取り締まり、さらに幕府の学校で朱子学以外の儒学を禁止して、試験による人材登用も進めました。軽犯罪者の更生のための入居寄場もつくりました。定信が進めた政策は、寛政の改革とよばれています。改革の厳し

さへの批判もありましたが、定信が老中を辞任したあとも、19世紀初めまで幕府の基本政策となり、特に飢きんの備えは幕末まで有効に働きました。一方、このころ通商を求めてロシア船が接近するようになり、幕府は海防への対策にも進められました。

資料活用アイコン 資料活用

「歴史的な見方・考え方」を動かせるのに適した写真・資料に付しています。p.85、300など全78か所に掲載しています。

確認しよう

本文や図版から、学習上大切な事項を確認させる問いです。正しく文章を読む力(読解力)を養い、知識の確実な定着を促しています。

説明しよう

学習課題を振り返り、習得した知識を活用して言語活動につながる問いです。思考力、判断力、表現力の育成を促しています。

「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成

見通し・振り返りがしやすい構成で「指導と評価の一体化」を支援

まとめとして章末に「学習を振り返ろう」を設置しています。1 ページ目では「章の問い」に対する考えをまとめる上で大切だと考える出来事を、年表を用いて確認できるようにしています。2 ページ目では「タイムトラベル」と思考ツールを用いた対話を通して、「章の問い」に対する自らの考えをまとめることで「深い学び」を実現できるようにしています。

「学習を振り返ろう」

知・技 思・判・表 主

p.158-159

学習を振り返ろう



4章 近世 (p.105 ~ 157)

武家政権の展開と世界の動き



4章の問い
全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。

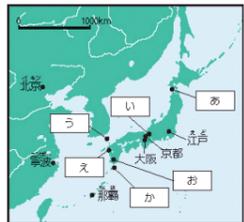
学習事項の確認 知識

時代	主な出来事(政策)	文化	国際	朝鮮
16世紀	1543 鉄砲の伝来(種子島) 織田信長の台頭(楽市・楽座) 73 室町幕府の滅亡	桃山文化 ・城下町・大広間・屏風絵 ・茶の湯(抹茶・かき落とし)	南蛮貿易 ・南蛮文化(キリシタン教(米・通商))	明
17世紀	90 豊臣秀吉が全国統一(検地・刀狩) 文禄の役・慶長の役 1600 B 関ヶ原の戦い 徳川家康による江戸幕府の成立 薩摩藩が琉球を征服(武家法度) 幕藩体制の確立	元禄文化 ・俳句・狂歌・浄瑠璃 ・浮世草子・浄瑠璃	C 長崎・D 対馬 E 薩摩・F 松前 元禄文化 ・俳句・狂歌・浄瑠璃 ・浮世草子・浄瑠璃	朝鮮
18世紀	37 島原・天草一揆 ~ 38 (キリスト教禁止) 69 ジャクシャインの戦い 徳川綱吉による政治(文治政治) 五街道・参勤交代 1716 徳川吉宗による享保の改革(換約)(公事方御定書)	享保文化 ・茶の湯・浄瑠璃 ・浮世草子・浄瑠璃	朝鮮通信使 (計12回) 幕府や藩も生産を支援 手工業から問屋制家内工業へ 貨幣経済の広まり 田沼意次の政治(商業重視)	清
19世紀	82 天明の飢きん ~ 87 百姓一揆・打ちこわし 87 松平定信による寛政の改革(農業重視)(換約) 1825 異国船打払令 33 天保の飢きん ~ 36 37 大塩平八郎の乱 41 天保の改革	化政文化 ・浮世草子・浄瑠璃 ・山姥歌・健康	外国船の接近 ・通商手続 ・通商手続	

1) 時代の特色を考えるにあたって、次の作業を行って、あなたの年表を完成させよう。

① 政治や国際関係の変化で重要だと考える出来事に赤いマーカーを、生活や社会の様子について重要だと考えた出来事に黄色いマーカーをつけよう。

② 「章の問い」に対する考えをまとめるうえで、大切だと考える出来事を書き足したり、関係のある出来事どうしを矢印で結んだりしよう。



節の振り返り 思考・判断・表現

それぞれの節の学習を振り返って、「節の問い」に対するあなたの考えをまとめよう。

- 節の問い
- 1節 p.106-113 ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。
 - 2節 p.116-123 全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。
 - 3節 p.124-131 江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか。
 - 4節 p.136-145 なぜ江戸時代に産業や経済が発達したのだろうか。
 - 5節 p.146-153 なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。

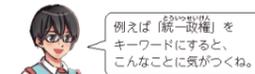
章の振り返り タイムトラベルを活用した振り返りから、「章の問い」に対するあなたの考えをまとめよう

思考・判断・表現

1 タイムトラベルを活用して振り返ろう。

タイムトラベル「②安土桃山時代」「③江戸時代」を見比べて、大きく変化したことや、重要だと感じたことを見つけよう。また、なぜそう考えたのか、根拠も踏まえて説明しよう。

タイムトラベルを見比べる際は、キーワードを設定し、見方・考え方を働かせよう。



見方・考え方 見方・考え方 巻頭8

例えば 比較 農具や農作物の違いに着目しよう

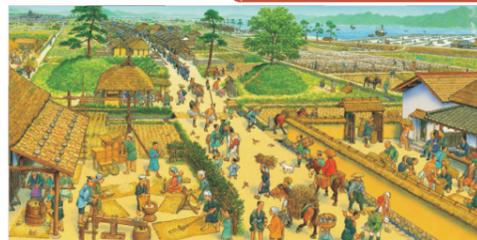
「②安土桃山時代」と「③江戸時代」の絵を見比べて、百姓たちが使っている農具や、育てている農作物はどのような違いがあるだろうか。

相互の関連 武器をもつ人々が増えた背景に着目しよう

p.90~91の「①室町時代」や、「②安土桃山時代」、「③江戸時代」で、武器をもっている人々が増えていることは、統一政権の誕生とどのように関連しているだろうか。



p.114~115 タイムトラベル ②安土桃山時代



p.134~135 タイムトラベル ③江戸時代

2 ほかの人と話し合っ「章の問い」を考察しよう。

① 見つけたことや左の年表にマークしたこと、統一政権の誕生による社会の変化を考えるにあたって重要だと感じたことについて、あなたの考えを整理しよう。例えば右のように、それぞれの事項がどのように関連するのかを整理して考えよう。



グループになり、整理したなかから特に大きな変化だと感じたこととその理由を発表し、意見交換をしよう。発表にあたっては、「節の振り返り」を参考にして、そのことの影響や原因、結果や影響も踏まえよう。

グループでの話し合いで気づいたことを踏まえ、「章の問い」に対するあなたの考えをまとめよう。

章の振り返り① NEW

タイムトラベルを活用して時代の変化や特色をつかむ

「タイムトラベル」を振り返り、他の時代と見比べて、大きく変化したことや重要だと感じたことを見つけ、なぜそう感じたのかを根拠も踏まえて説明します。

「タイムトラベル」を見比べる際の着眼点やキーワードがあるので、「歴史的な見方・考え方」を働かせることができます。

章の振り返り② NEW

思考ツールに考えをまとめて対話を通して考えを深める

①で見つけたことや左の年表の中から、重要だと感じたことを思考ツールにまとめて考えを整理できるようにしています。整理した中から特に大きな変化だと感じたことを、グループになって意見交換をします。グループでの話し合いで気づいたことを踏まえて、「章の問い」に対する自らの考えをまとめられるようにしています。

章の振り返り③へ (本資料 p.37-38)

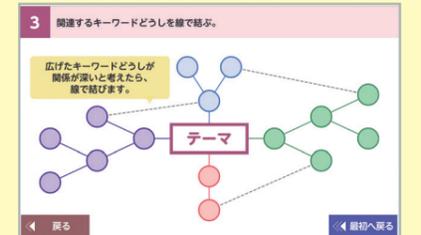
巻頭9

考えを整理する方法 ~ 思考ツールを活用しよう ~

1 Xチャート
2 思考ツール
3 ステップチャート
4 ランキング

思考ツールアイコン掲載ページ一覧(全4か所)

ページ	思考ツールの種類
p.159	ウェビング
p.225	Xチャート
p.273	ステップチャート
p.305	ランキング



QRコンテンツ 思考ツール「ウェビング」の活用手順動画

学習事項の確認 NEW

「政治・国際関係の変化」や「生活・社会の様子」など要素ごとに色を分けてマーカーをつける、書き足すなどして自分なりの年表を作ることができます。

節の振り返り

章の中の「節の問い」を振り返ります。

ポイント

思考ツールアイコン 思考ツール 巻頭9 NEW

視覚的に分析したり考えを整理したりする際に用いる図や表を、思考ツールといいます。思考ツールを活用する場面には「思考ツールアイコン」を付し、活用を促しています。また、巻頭9とQRコンテンツでは、教科書で取り上げている思考ツールの紹介と、活用の手順を動画で説明しています。

「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成

見通し・振り返りがしやすい構成で「指導と評価の一体化」を支援

「学習を振り返ろう」の3ページ目ではこれまでの考察を踏まえて、どのような特色のある時代だったかを根拠をもってまとめることで時代への理解を深めることができます。各章末「学習を振り返ろう」のあとに、次に学習する時代の「章扉」を設置することで、見通しが立てやすい構成にしています。

「学習を振り返ろう」

知・技 思・判・表 主

③ 時代の特色を考察しよう。 **思考・判断・表現**

●これまでの考察を踏まえて、近世はどのような時代だったかを、あなたの言葉でまとめよう。

○ **近世の特色**

○ 近世は、 [] の時代である。

○ なぜなら、 [] からである。

●上でまとめたあなたの考えを、タイムトラベルを活用して、発表しよう。

「これからの社会を構想しよう」(→p.307)への準備

現在のつながりを考えよう

近世の学習から、現在の社会と共通していると感じたことは何か、また、大きく異なっていると感じたことは何か、右の視点を参考に話し合ってみよう。その際、タイムトラベルも改めて見返してみよう。

視点

- ・特産物の生産
- ・ひな祭りや端午の節句などの行事
- ・印刷物の普及

SDGsとのつながりを考えよう

コラム「未来に向けて」や本文、タイムトラベルなどから、地球的な課題と関連していると感じたものを探し、SDGsの17の目標のうちどの目標とつながっているのか、ほかの人と話し合ってみよう。

江戸時代には、資源を大切に使う習慣が根づいていたね。教科書ではどのような取り組みが紹介されていたかな。

12



●「学習する時代の見通し」(→p.105)に戻ってみよう **主体的な学び**

章のはじめにあなたが立てた予想から、あなたの、この時代に対する考えはどのように深まったのだろうか。章の学習を通じて感じたことや、さらに深めたいと思ったことを、下の「振り返り」に書いてみよう。

- 節や章の問い、時代の特色をまとめる際に使用した用語に✓をつけよう。
- 香辛料 (p.108)
 - 蠟夷地 (p.131)
 - 植民地 (p.111)
 - 五街道 (p.140)
 - 太閤 (p.117)
 - 浮世絵 (p.145)
 - 百姓 (p.118)
 - 貨幣経済 (p.146)
 - 旗本と御家人 (p.125)
 - 商品作物 (p.147)
 - オランダ風説書 (p.129)
 - 打ちこわし (p.148)
 - 朝鮮通信使 (p.129)

● 振り返り

- 章の問い：学習を通して考えをまとめることが よくできた できた あまりできなかった
- 時代の特色をまとめるうえで有効だった「見方・考え方」 時期や年代 推移 比較 相互の関連
- 「学習する時代の見通し」から考えが深まったこと
- 章の学習を通して感じたこと・さらに深めたいと思ったこと

第5章 近代前半 近代国家の歩みと国際社会

5章の問い

○ 近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか。



● 小学校で学んだ人物と主な出来事

江戸時代		明治時代	
1837 大塚平八郎 の乱が起こる	1853 ペリーが 日本に 来航する	1867 徳川慶喜が 政権を朝廷 に返す	1868 江戸を東京 とする
→ 大塚平八郎	→ ペリー	→ 明治天皇	

この章で学習する節の問い

1節 欧米諸国における近代化 p.162-175	4節 近代国家への歩み p.194-203
2節 開国と幕府の終わり p.176-183	5節 帝国主義と日本 p.206-213
3節 明治政府による近代化の始まり p.186-191	6節 アジアの強国の光と影 p.214-223

→ p.224で振り返ろう 161

章の振り返り③ **NEW**

これまでの考察を踏まえて
どのような特色のある時代だったかをまとめる

最後にまとめた考えは、「タイムトラベル」を活用して発表します。

「主体的・対話的で深い学び」へ

「これからの社会を構想しよう」への準備 **NEW**

歴史的分野の最終単元に「これからの社会を構想しよう」(本資料 p.43-44)を設置し、公民的分野の学習活動につなげられます。

各章での学習を「現在」SDGsと関連付けて考えることで、
これからの社会を構想する姿勢を育成することができます。

公民的分野の学習へ

「学習する時代の見通し」(章扉)に戻ってみよう **NEW**

章のはじめに立てた予想から、この時代に対する考えがどのように深まったかを振り返ることができます。

章の学習を通じて感じたことや、さらに深めたいと思ったことを書き出すことで、「主体的な学び」につなげることができます。

次章の章扉へ

「学習する時代の見通しを」もとう(章扉) **NEW**

これから学習する時代について、どのような時代なのかを話し合う活動を設置しています。

前の章の「学習を振り返ろう」を確認しながら、次に学習する時代におこる社会の変化を予想することができます。

「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成

対話を通して学びを深める「アクティブ歴史」

NEW

「主体的・対話的で深い学び」を実践する特設「**アクティブ歴史**」を新設しています。対話を通して、課題に粘り強く向き合う姿勢や、他者との意見交換を通して合意形成を目指す態度を身に付けられるようにしています。また、単元の学習を生かして取り組むことで、単なる知識・技能ではなく、「生きて働く知識・技能」を定着させることができるようにしています。

アクティブ歴史 AL

見方・考え方
江戸時代の人々の考えや、幕府の方針に着目しよう。

赤穂事件を考察する



ワークシート

学習課題

徳川綱吉(→ p.137)の治世下、旧赤穂藩の浪士(赤穂浪士)たちが主君の仇討ちをした事件(赤穂事件)は、当時、大きく注目され、赤穂浪士は人々から賞賛されました。この事件の処罰の方針をめぐる意見から、当時の政治や社会の特色を考察しましょう。

テーマ 仇討ちを果たした赤穂浪士に対し、江戸幕府は、どのように対処したのだろうか。

赤穂事件とは…

1701(元禄14)年、幕府の重要な行事の当日に、その担当であった赤穂藩主の浅野内匠頭長矩が、同じく担当していた吉良上野介義央を突然切りつけました(松の廊下事件)。この責任をとるため、浅野内匠頭長矩は幕府から即日切腹を命じられ、赤穂藩も改易(廃藩)となりました。残された赤穂浪士は翌年、吉良邸内に討ち入り、吉良上野介義央を討ち取りました。人々は、浪士たちを、主君の仇討ちを果たした「忠臣の義士」と讃めたためました。



幕府内の意見

5代将軍徳川綱吉は迷っていた…

もし、主君の仇討ちを許さないというのであれば、古くからの道理にも背き、忠臣や孝子*の心を傷つけることになる。さらには、「学問・武道と忠義・孝行に励む」とした武家諸法度にも背くものである。浪士たちを厳罰にするのは、果たして適切なことなのだろうか。

幕府の評定所*の意見

浪士たちは主人の遺志を継いだ忠臣です。大勢で討ち入ったのはその志を遂げるためのしかたがない手段です。しばらくは大名預けとして何年か後に判決を出すのがよいと考えます。

幕府の文政をつかさどった幕官 林信篤の意見

主君の仇討ちを果たした彼らは、武士道を実践して大いに褒められるものです。しかし、彼らが天下の法を破ったことは間違いない。これは道理に背くものです。

綱吉の老中に仕えた儒学者 政生伯樸の意見

浅野が吉良を殺そうとしたのであって、吉良が浅野を殺したわけではありません。そのため、吉良は浅野の仇ではありません。浅野は、一時の怒りからして吉良を殺そうとしたので、浪士たちの行動は、主君のこの「深志」*を継いだものであって、忠義とはいえないでしょう。 *間違った思いや考え

技能をみかく 11 資料をもとに、当時の人々の考え方を理解する

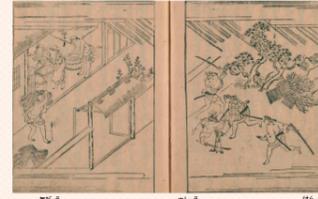
当時の人々の考え方は、現在の私たちと同じとは限りません。当時の人々の考え方を理解するには、当時の人々の言葉などの資料をもとに、当時の政治や社会の特色を踏まえて、当時の人々になったつもりで考えることが大切です。

資料 赤穂事件をめぐる動きや背景

主な処罰

赤穂藩主浅野内匠頭長矩… 即日切腹
赤穂藩 … 改易(廃藩)
吉良上野介義央 … 処罰なし

松の廊下事件に対する主な処罰 切腹は、死罪ではありませんが、武士の礼になかった処罰と考えられていました。



赤穂浪士をよんだ歌

たのもしや内匠の家に内蔵ありて 武士の魂を取り出しけり

頼もしいことではないか。内匠の家(浅野内匠頭)に内蔵(大石内蔵助)があって、武士の魂(儀、手本)を取り出してきた。

歌からは、江戸の人々の討ち入りに対する共感が読みとれます。当時の人々は、喧嘩両成敗が武士の慣例であるのに、吉良は切腹しなかったことに対して、武士らしくないと思っていたともいわれています。

武家諸法度 天和令

一、学問・武道と忠義・孝行に励み、礼儀正しくふるまうこと。
一、謀反を計画したり、仲間(徒党)を集めて行動を起こす誓約を結ぶことを禁止する。
一、喧嘩や口論はしないようにし、私的な争いを禁止する。
もし、やむを得ない理由があれば、奉行所に届けて指示を待つこと。

武家諸法度の方針変更(天和令) 徳川綱吉は、それまでの武家諸法度の最初の一文であった「文武両道の道に、むたすら励むこと」(→p.125)を改め、「忠義と孝行に励むこと」を強調しました。このほかにも儒学を重視するなど、学問や礼節を重んじる政治へと転換を行いました。

資料活用 p.125の武家諸法度の内容と比較してみよう。

TRY 整理しよう ①幕府内の意見と資料を読んで、浪士に対して助命する意見と厳罰にする意見を、その根拠を示して整理しよう。

	主な意見	その根拠
助命		
厳罰		

考えよう ②「整理しよう」を踏まえて、あなたが将軍であったら、どのような処罰を下すだろうか。以下のいずれかを選び、当時の資料に基づいた判断の根拠を明確にして書こう。

助命・厳罰・その他
赤穂浪士たちの処罰は、
その根拠

表現しよう ③下の資料の、実際の幕府の処罰を読み、あなたの考えとどの点に相違があったのか、確認しよう。

④なぜ、幕府は浪士たちに、全員「切腹」という処罰を決定したのだろうか。グループになり、その理由を報告が目標とした政治の考えを根拠に、グループの人に説明しよう。

幕府の赤穂浪士に対する処罰 浪士たちは、主人の仇に頼ると主張して、浪士たちで徒党を組み、吉良邸へ押し込み、飛び道具などで持参し、吉良義央を討ったことは、幕府を恐れない行動で、法に背いた行為である。これによって切腹を命じる。

「アクティブ歴史」掲載ページ一覧(全5テーマ)

ページ	テーマ	時代
p.34-35	前方後円墳の役割を考察する	古代
p.76-77	武士の暮らしから考察する	中世
p.156-157	赤穂事件を考察する	近世
p.204-205	『三酔人経綸問答』を考察する	近代前半
p.248-249	「母性保護論争」を考察する	近代後半

当時の社会の様子を読み解く資料

資料を読み解くことで、当時の社会の考え方を踏まえてテーマをさらに深く考察できます。江戸の人々が赤穂事件をどのように見ていたのかを示し、また私的な争いを禁止する武家諸法度の条文などを提示しています。

ポイント

活動を促すさまざまなパフォーマンス課題

習得した知識や技能を使って実践的に考えていくパフォーマンス課題を設定しています。ペーパーテストでは測りにくい「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の見取りに最適です。

対話を中心とした活動型学習

正解がひとつでない課題に対して、意見交換や発表をする対話型の学習活動を多く設定しています。対話を通した「深い学び」が実現できるようにしています。

「見方・考え方」の活用

ページ全体で働かせる「見方・考え方」を明示しています。「見方・考え方」を働かせることで、歴史的分野の資質・能力を育成できるようにしています。

他分野とのつながり

例えば、p.248-249「母性保護論争」を考察するでは、女性の社会進出に際して、出産や育児の負担をどのように解決すべきかを、歴史的な背景を踏まえて当時の資料をもとに考えます。学習活動の最後には、当時問題であったことを現在の社会の状況と重ねて話し合う活動で結びとしており、公的分野の学習に接続できます。

当時の人々の意見

テーマを受けて相対立する意見を具体的に示していき、多面的・多角的に考察するきっかけにしています。ここでは、赤穂事件をめぐる、どのような意見の対立があったのかを具体的に示しています。

ポイント

対話アイコン

他者とのやり取りを通じて思考を広げる問いや学習課題には「対話アイコン」を付しています。対話を通して自らの考えをより深めるとともに、他者の意見を尊重する態度を身に付けられるようにしています。p.157、225など全37か所に設置しています。

考えを深めるアクティビティ

論点の整理→自分なりの考察→話し合いのステップで、段階的に自分の考えを深めていく中で、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしています。